

復興支援と博物館-大船渡市立博物館支援事業-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館 公開日: 2016-06-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島田, 和高, 坂元, 昭一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17905

復興支援と博物館

—大船渡市立博物館支援事業—

島田 和高*
坂元 昭一[§]

1 経緯と目的

本報告では、大船渡市立博物館において明治大学博物館（以下、当館）が実施した2014年度の震災復興支援事業について、その経過と内容を紹介し、事業を通して得られた博物館としての復興支援のあり方についてまとめる。2012年に「大船渡市と明治大学との震災復興に関する協定書」が大船渡市長と明治大学学長の間で締結された。これにもとづき、現在に至るまで本学の震災復興支援センターが中心となって学生ボランティアなどによる多面的な復興支援活動が実施されている。一方、2013年5月に大船渡市立博物館から博物館活動の支援を打診する文書が届き、当館での検討事項となった。先の協定に挙げられている「震災後の地域復興、地域活性化に関わる連携」「教育・文化・学術面における地域の復興・発展のための連携」の観点から当館の史資料および研究成果を活用した支援事業の策定に取り

*しまだ・かずたか／学術・社会連携部 博物館事務室 学芸員

§さかもと・しょういち／学術・社会連携部 博物館事務長

掛かった。

大船渡市立博物館は、岩手県大船渡市末崎町字大浜に所在し、碁石海岸の一角に位置している。海岸に近接しているが、十分な高台にあったため津波による直接の被害は免れた。しかしながら、被災地で喫緊に迫った震災復興に関わる用地確保に伴う発掘調査のため、学芸員2名（自然系1名、人文系1名）のうち1名が埋蔵文化財調査に出向しており、実質的に博物館活動が低下していたことが今回の支援要請の主な要因となった。2013年度中に大船渡市立博物館と協議を繰り返し、地域住民に足を運んでもらえるよう同館の特別展示室を利用した展覧会の開催を軸とした講演会、体験教室の実施により、同館の活動を支援する方向で計画が策定された。展覧会は当館の資料を100パーセント用いた内容とし、講演会と体験教室には当館学芸員が出講することとした。

以上の経過を含め、「大船渡市震災復興支援事業（博物館）」計画を策定し、展覧会開催にかかる美術品輸送費などを2014年度予算要求として計上したが、要求は認められなかった。そこで、2014年度に入り、民間企業等による震災復興支援事業への助成金に複数応募したが、いずれも結果は芳しくなかった。こうした状況に至ったわけだが、その後も大船渡市立博物館との話し合いを行い、当館の年度計画を再調整のうえ年次経常経費から事業費を工面し支援事業を実施した。

2 事業内容

展覧会は、明治大学震災復興支援事業特別展覧会「明治大学博物館コレクションの世界—氷河期から昭和まで—」と題して、大船渡市立博物館の特別展示室を会場とし、2014年7月26日～8月31日の会期で開催した(図1)。市民講座は、「大船渡市成人大学講座」の一環として、2014年7月31日と8月21日に実施し



図1 特別展覧会ポスター

た。また、小学生を対象とした体験教室は、夏休み子ども大学「出張！子どもはにわ教室」として2014年8月7日に開催した。

2.1 特別展覧会

特別展覧会は当館と大船渡市立博物館の主催とし、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、岩手日報社、岩手日日新聞社、河北新報社盛岡総局、東海新報社、IBC 岩手放送、NHK 盛岡放送局、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビから後援を得ることができた。また、展覧会の広報については大船渡市立博物館から全面的な協力を得ることができ、地元紙である東海新報には主要な展示品の写真と解説の連載記事を掲載することができた。

展示は、刑事・考古・商品の三部門に幅広くまたがる当館のコレクションを活用し、旧石器時代から昭和時代までの日本列島史の変遷をたどる構成とした。展示の内容は、会期が小中校の夏休み期間ということもあり、各時代の概要を解説しながら時代とモノの対応をわかりやすく学べるよう配慮した(図2、写真1～4)。

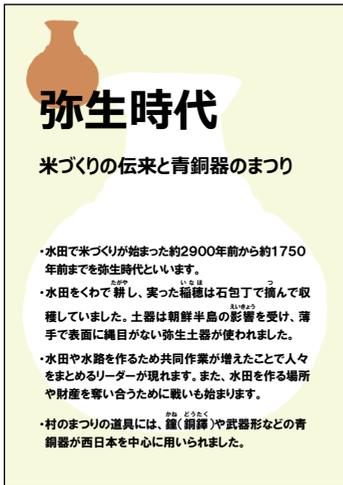


図2 特別展覧会パネルの一例

展示品には東北地方にゆかりの深い資料も含めたが、むしろ明治大学のコレクションの特色を前面に出している。表1に展示資料の一覧を示した。展示資料は、合計175点に達し、展示構成は以下の通り12の大項目に分かれる。1. 旧石器時代：氷河期のハンターが使った道具、2. 縄文時代：豊かな狩猟採集民、3. 弥生時代：米づくりの伝来と青銅器のまつり、4. 古墳時代：王の出現とその権力、5. 飛鳥・奈良時代：仏教の伝来と都の建設、6. 安土桃山時代：豊臣秀吉の天下統一(以上、考古部門コレクション)、7. 中世：武士の世の到来、8. 近世1：江戸



写真1 特別展覧会風景(1)



写真2 特別展覧会風景(2)



写真3 特別展覧会風景(3)



写真4 展覧会を視察する戸田公明大船渡市長(左)と風間信隆明大博物館長

幕府の政治、9. 近世 2:江戸時代の大名、10. 近世 3:商業の発展と町人文化、11. 近代: 明治維新・近代化と対外進出、12. 現代: 経済復興と新たな時代の到来 (以上: 刑事・商品部門コレクション)。

2.2 講演会・体験教室

講演会は、全6回の「大船渡市成人大学講座」の一環として、大船渡市民交流館カメラホールで開催した(写真5)。7月31日には刑事部門学芸員による「東北の大名から江戸時代をみる」、8月21日には考古



写真5 大船渡市成人大学講座(大船渡市提供)

表1 特別展覧会「明治大学博物館コレクションの世界—水河期から昭和まで—」出展資料一覧

No	時代	資料名	資料群	数量	No	時代	資料名	資料群	数量
1	旧石器	マンモス頭骨（レブリカ）	アラスカ出土	1	45	古墳	線刻歯文緑複弁八葉蓮華文軒丸瓦	法隆寺	1
2	旧石器	石斧	岩宿I石器文化レブリカ	2	46	古墳	線刻歯文珠文緑複弁八葉蓮華文軒丸瓦	平城宮	1
3	旧石器	石器	岩宿I石器文化レブリカ	5	47	古墳	文字瓦「国分寺」	下野国分寺	1
4	旧石器	石核	岩宿I石器文化レブリカ	1	48	古墳	文字瓦「崎」	武蔵国分寺	1
5	旧石器	両面調整石器	置戸安住遺跡	2	49	古墳	珠文緑複弁八葉蓮華文軒丸瓦	信濃国分寺	1
6	旧石器	細石核	置戸安住遺跡	6	50	古墳	珠文緑複弁八葉蓮華文軒丸瓦	東大寺大仏殿	1
7	旧石器	細石刃	置戸安住遺跡	20	51	古墳	五三桐文軒丸瓦	大坂城	1
8	旧石器	ナイフ形石器	月見野 IIIIC	8	52	古墳	連珠三巴文軒丸瓦	小田原一夜城（石垣山城）	1
9	旧石器	角錐状石器	月見野 IIIIC	2	53	古墳	均整唐草文軒平瓦	小田原一夜城（石垣山城）	1
10	旧石器	尖頭器	武井遺跡	10	54	中世	御成敗式目	刑事和書	1
11	旧石器	搔器	武井遺跡	6	55	近世	武家語法度	内藤家文書	1
12	旧石器	槍先尖頭器	多久三年山	6	56	近世	キリスト教禁令（高札・切支丹札）	刑事高札	1
13	旧石器	神子柴型石斧	上太田	3	57	近世	生類憐み令	内藤家文書	1
14	縄文	関山式土器	藤岡貝塚	1	58	近世	公事方御定書	刑事和書	1
15	縄文	大洞式土器	雨滝遺跡	4	59	近世	岩城領定納之御帳	内藤家文書	1
16	縄文	石匙	雨滝遺跡	6	60	近世	岩城平絵図	内藤家文書	1
17	縄文	石鏃	雨滝遺跡	10	61	近世	奥州岩城平之城覚書	内藤家文書	1
18	縄文	石錐	雨滝遺跡	6	62	近世	株仲間鑑札（雲母株）	刑事鑑札	1
19	縄文	岩板	雨滝遺跡	2	63	近世	株仲間鑑札（松前物并諸干物仲間）	刑事鑑札	1
20	縄文	ミニチュア土器	雨滝遺跡	5	64	近世	江戸名所図会（駿河町三井店）	刑事和書	1
21	縄文	玉（装着復元）	山王遺跡	3	65	近世	印籠（竹に虎）	時田コレクション	1
22	縄文	土偶（ステージ×1）	亀ヶ岡遺跡	1	66	近世	印籠（柳に燕）	時田コレクション	1
23	縄文	亀形土製品	江原台遺跡	1	67	近世	根付（瓠韋駒）	時田コレクション	1
24	縄文	土偶	江原台遺跡	1	68	近世	根付（聞いて極楽）	時田コレクション	1
25	縄文	土版	堀之内貝塚	1	69	近世	根付（蛇に脱まれた蛙）	時田コレクション	1
26	弥生	壺形土器	板付遺跡	1	70	近世	いろはかるた	時田コレクション	1
27	弥生	甕形土器	西志賀遺跡	1	71	近世	手鎖	名和コレクション	1
28	弥生	壺形土器片	登呂遺跡	1	72	近世	十手	名和コレクション	1
29	弥生	石包丁	深草遺跡	1	73	近世	奥羽鎮撫・総督府高札	刑事高札	1
30	弥生	太形蛤刃石斧	深草遺跡	1	74	近代	東京名所新橋ステーション蒸気車之図	刑事錦絵	1
31	弥生	袈裟褌文銅鐸	出土地不明	1	75	近代	日清戦争と三国干渉（臥薪嘗胆・池部釣画）	時田コレクション	1
32	弥生	中細形銅矛	伝遠賀町岡垣	1	76	現代	標準いろはかるた（昭和戦前）	時田コレクション	1
33	弥生	中広形銅戈	伝大牟田市	1	77	現代	戦後間もなくの頃のいろはかるた（八島屋）	時田コレクション	1
34	古墳	馬形埴輪	西町古墳	1	78	現代	ピニロンハンドバッグ	商品	1
35	古墳	農夫埴輪	出土地不明	1	79	現代	サラン製ポストンバッグ	商品	1
36	古墳	船載三角緑神獸鏡	伝京都府物集女	1	80	現代	フェノール樹脂製汁椀	商品	1
37	古墳	鍬形石	出土地不明	1	81	現代	ユリア樹脂製汁椀	商品	1
38	古墳	車輪石	出土地不明	1	82	現代	ポリエチレン樹脂製ソース瓶	商品	1
39	古墳	石錮	出土地不明	1	83	現代	ポリエチレン樹脂製哺乳瓶	商品	1
40	古墳	鉄刀	姫塚古墳	1	84	現代	電化の時代（Canola130電子計算機）	商品	1
41	古墳	鏢	姫塚古墳	1	85	現代	マスメディアの影響力（鉄人28号カルタ）	時田コレクション	1
42	古墳	重圈文緑単弁八葉蓮華文軒丸瓦	山田寺	1	86	現代	南部鉄器・鉄瓶	伝統的工芸品	1
43	古墳	線刻歯文珠文緑複弁八葉蓮華文軒丸瓦	藤原宮	1	87	現代	秀衡塗・わんこそば椀	伝統的工芸品	1
44	古墳	素文緑複弁八葉蓮華文軒丸瓦	飛鳥寺	1					

部門学芸員による「氷河期の日本列島と最古のハンター」とそれぞれ題した講座を開講した。前者では、7万石の譜代大名内藤家が江戸時代中頃まで福島県のいわきに所領を有していたことから、当館が所蔵する内藤家伝来の古文書（内藤家文書）を素材にして、江戸時代の東北地方の藩の様子について解説した。後者では、2000年に発覚した日本考古学界最大のスキャンダルである「前期・中期旧石器時代遺跡捏造事件」以降、10数年がたったことを受け、現在、日本列島最古の人類文化がどのように成立したと考えられているのか紹介するとともに、旧石器時代人が生活した氷期の日本列島について解説した。

体験教室「出張！子どもはにわ教室」は、大船渡市三陸町にある綾里小学校の児童・保護者を対象として大船渡市綾里地区コミュニティ施設・綾姫ホールで実施した（写真6）。体験教室は20名程度に申込参加者を限定し、考古部門学芸員が栃木県米山東古墳出土埴輪出土の埴輪破片などを会場に持ち込み、実物をもとにして埴輪とは何かから埴輪の作り方までを分かりやすく解説した。そして参加者は、バラバラに破損して出土した埴輪破片を接合してもとの埴輪の形を組み立てる体験を行った。

以上に述べた講演会・体験教室の実施にあたっては、現地のコーディネーターなど大船渡市立博物館と大船渡市教育委員会から全面的な協力を得た。

3 結果と効果

特別展覧会の開幕当日には、大船渡市長が大船渡市立博物館を訪れ、当館館長と学芸員の案内のもと展示を視察した（写真4）。特別展覧会には、会期中で合計1,264人の入場者があった。東北地方では博物館等においても普段目にするにできない埴輪や江戸期の史資料が来館者に好評であった。先に述べた通り、当館の三部門のコレクションを通時的なテーマで統



写真6 子どもはにわ教室（大船渡市提供）

合的に展示する初めての試みであったが、存外に違和感なくまとめることができた。

講演会には、各回約 60 人が受講した。体験教室では、小学生 11 名が埴輪に触れる体験を行った。東北地方における古墳時代の埴輪の分布は極めて限られるため、触れるどころか目にする機会のない埴輪に直接接触し、破片の接合を体験することができたことは、児童に大きな印象を与えた。なお、これらの事業は、大船渡市と明治大学の協定に基づき、当館が中心となつて行う展覧会・講演会の開催として、東海新報（7 月 4 日付）に取り上げられた。

4 博物館としての復興支援を振り返って

2013 年に復興支援の一環として特別展覧会の実施について依頼があったものの、現地在復興事業に邁進している状況で、地元の方々に特別展覧会に興味を持ってもらえるかどうか不安があったのは確かである。そこで直接現地に赴き、諸々の状況を視察したところ、地域全体も復興事業にやや疲弊しており、何らかの文化的活動を渴望しているという印象を受けた。こうした判断をもって大船渡市立博物館への活動支援を決定したわけである。

一方、岩手県や大船渡市における復興支援の一環としての文化事業に対する補助金の有無を調査した。しかしながら、復興事業に予算を集中させているため、その時点での文化的活動への公的な助成は困難とのことだった。前述した通り 2014 年度の大学事業としては認められなかったため、2014 年 3 月に大船渡市立博物館を訪問し、支援事業の実施が難しいことを伝えた。その際、先方が大変落胆され、小規模でも構わないので何とか実施できないかとの強い要請を受けた。その後、館内で議論した結果、大型の展示資料を極力減らすことで美術品輸送費を半分以下に抑え、展示品の数を増やして内容を充実させるという方針を確認し、2014 年度博物館費を調整し活動支援を実施することにした。これを先方に伝えたところ、大変喜ばれたと共に「成人大学講座」と「夏休みこども大学」へ出講する当館学芸員の旅費交通費を大船渡市で負担していただけることになった。このように、本支援事業の実施までには紆余曲折があったものの、双方関係者の努力により 2014 年 7 月、

特別展覧会を無事に開幕する事ができたのである。その内容と結果は前述したとおりである。

展示シナリオの検討段階では、展示のボリュームが決して大きくはないために、単純に刑事・考古・商品のコレクションを部門別に展示するだけでは全く物足りないと判断された。アイデアを館内で検討した結果、前述した三部門のコレクションの時系列的な連続を強調した展示方法を採用した。これは、近年になって「前場幸治瓦コレクション」や図書館と共有する「時田ことわざコレクション」など大型コレクションの寄贈を受けたことによって、三部門のコレクションが帰属する時間の溝が埋まったことが大きい。つまり、表1の展示資料一覧に示されるように、旧石器時代から現代まで変動する日本列島史をコレクションで繋ぐことができるようになったのである。

これまで、ときに三部門の独自性が強調され、関連性よりも縦割りの感覚が強かった当館にとって、三部門のコレクションを時系列的に見直すという新しい視点での取り組みが可能であることを確認できた。2014年度は、資料購入を見送るなど経費的には厳しい一年であったが、明治大学震災復興支援事業特別展覧会「明治大学博物館コレクションの世界―氷河期から昭和まで―」を実施してみてこの事を確認できたことは、大きな収穫であったといえるだろう。また、開催までに苦労はあったものの、特別展覧会や「成人大学講座」および「夏休みこども大学」の実施を通して大船渡市長や同教育長、同博物館長をはじめ、大船渡市民の方々から感謝の言葉を頂戴したのが今回の支援事業を担当した私達にとって何よりの労いになった。